

季刊 ゆがの通信

2010年10月号

発行：ゆがの薬局

「コンピュータ時代の救世主」 「飲む目ぐすり」杞菊地黄丸

「コンピュータ」と現代病

中国の「飲む目ぐすり」が、コンピュータを使って働く人やパソコン愛好家、テレビゲーム好きの間で愛用されています。加速するコンピュータ社会は、目と脳の集中的酷使をもたらす、VDT（ビジュアルディスプレイターミナル）コンピュータ（症候群）という社会病を生み出しました。コンピュータを長時間見つめることを続けると、目や体に多様な変調が出現してきます。目の疲れ・かすみ・痛み、視力低下、慢性結膜炎、ドライアイ、充血、頭痛、頭重、肩こり、全身倦怠感、足腰がだるい、手足がほてる、口渇、のぼせ、耳鳴りなど、いずれも本人が気付かないうちに目から始まって全身症状が静かに深く進行していきます。従来のように目だけに注意を向けていたのでは本当の癒しにはなりません。目も体全体と深いつながりがあるのです。

「久視傷血（きゆうししじょうけつ）」

中国には「久視傷血」という言葉があります。同じものを長く見続けると「血」を消耗するという事です。この場合の血とは水分のことです。水分を消耗した結果として目がカサカサに

なるのです。その危険から逃れるにはコンピュータ作業の時間を短くすれば良いのですが、会社などではなかなかそうはいきません。失われた水分は何らかの方法で補ってやらなければなりません。西洋医学では失われた「血（水分）」を点眼薬で補い目を潤します。しかし、漢方では体の中から潤すのです。肝臓から「肝血」を、腎臓から「精血」という二系統の水分を目に補ってやりまます。これを「陰血を潤す」といいますが、体の内部から水分が補われる機能が働き始めるようにすることがすなわち根本から潤すということなのです。

「陰血を潤す」のにおすすめの漢方が「杞菊地黄丸」です。杞菊地黄丸を飲むことで肝臓・腎臓の機能が強化され、肝血と精血が体内で産生されます。とくにドライアイでお困りの方には即効性があります。

杞菊地黄丸のもともとの処方方は六味地黄丸という中国古来の名処方方で、頭がふらつく、手のひらや足のうらがほてる、腰やひざがだるくて力が入らない、精力減退、口が渇く、尿の出に勢いが無い、残尿感と余瀝（排尿後のしただり）があるなど人間の老化に関わりの深い症状に対応するものです。こ

の六味地黄丸に腎と肝の働きを補い、強壯作用のある枸杞子と、眼の疾患にもっとも多く使用される生薬で腎の熱と肝の熱を鎮める菊の花を加えたのが杞菊地黄丸なのです。

「久視傷血」になる前に杞菊地黄丸を日常的に飲んで自衛するというのがおすすです。こういうコンピュータ社会で生きていかざるをえない以上これがベストだと思えます。

クラシエ薬品（株）

「杞菊地黄丸」

七二〇粒入り（一ヶ月分）

七、三三〇円

一日三回、一回八粒を目安に服用してください。



「杞菊地黄丸」についての「ご相談」質問は店頭だけでなく、お電話でも受け付けております。

「健康的にダイエット！」なら「マイクロダイエット」をお試ください

ゆがの薬局

マイクロダイエット正規取扱店



黄茂郡河津町浜149-4 TEL0558-34-0150

当店ウェブサイト <http://www.yugano-ph.co.jp>